

# 社会福祉法人が連携して 組織強化と存在意義を示す

～かながわライフサポート事業や人材確保の取り組みから～

国内には約2万の社会福祉法人があり、本会経営者部会にも500を超える社会福祉法人が会員となって活動を行っています。今、その社会福祉法人には、平成12（2000）年の社会福祉基礎構造改革以来の改革の波が迫ってきています。今回の改革では、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取組を実施する責務」「行政の関与の在り方」の5つの柱が示され、“公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底する”とされています。

本会では、社会福祉法人が連携して、それぞれの施設や事業所がある地域において、生活に困っている方々の相談支援を行う「かながわライフサポート事業」を平成25年8月から実施しています。それに伴い、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の養成研修も行い、現在約130名の方々が活躍しています。CSWは分野を超えてつながり、施設・事業所内でも頼られる人材となっています。

一方、組織強化のための新たな人材確保は大きな課題となっていますが、本会では複数法人が連携して地域にある大学等との関係づくり、新人職員の地域の中での同期づくりなどを進めています。今回は、それらの社会福祉法人が連携して行う取り組みについて紹介します。

## 社会福祉法人制度の改革に 対応して

現在、継続審議中となっている「社会福祉法等の一部を改正する法律案」が出され、早ければ来年度から対応が必要となってくることもあります。経営者部会では、それに先立ち、まずは会員法人の現況を把握する必要があると考え、会員法人現況等調査を実施しました。

多くの法人がこの動きに関心を持ち、準備を進めようとしている状況が見えてきました。ただ、まだ対応や取り組みをどのようにしたら良いか、決めかねている法人もあることが分

事業規模①（平成27年10月現在まとめ）

運営事業所数	回答数	構成比
1分野1事業所	60	24.6%
1分野複数事業所	95	38.9%
複数分野複数事業所	79	32.4%
回答なし	10	4.1%
合計	244	100.0%

事業規模②（平成27年10月現在まとめ）

事業予算	回答数	構成比
～1億円	26	10.7%
～5億円	84	34.4%
～10億円	55	22.5%
10億円～30億円	47	19.3%
30億円以上	20	8.2%
回答なし	12	4.9%
合計	244	100.0%

かりました。一括りに社会福祉法人と言っても1分野1事業所のところもあれば、複数分野で複数の事業所を持つ法人もあります。また、事業規模も1億円未満のところもあれば10億円を超えるところもあります。そのような状況を踏まえながら、対応策を考えていくことが必要となります。一つ言えることは、種別や規模が違っていても、「国民に対する説明」と「地域社会に貢献する法人」であることは等しく求められているということです。

例えば、調査の中で約1割の法人が財務諸表や現況報告書の公表が十分にされていない状況にありました。

これらは早急に対応しなければなりません。

## 社会福祉法人が連携すると つながる

同じく調査の中では、各法人で取り組んでいる公益的な取り組みについても尋ねています。その中には特徴的で地域に根差した活動を展開している状況も見えてきました。

それぞれの法人が創意工夫の中で公益的な取り組みを行っている状況からも、これらの活動を「国民に対する説明」とあるように「知ってもらう」「仕掛けが必要と感じています。また、点での活動を線や面で伝えていくことも社会福祉法人の活動を知ってもらうということでは有効な方法だと考えています。

### 公益的な活動として回答のあった事例（一部）

- 障害のある在宅単身者に毎日夕食を提供
- 面接時のスーツの無償貸与
- 子どもの学習支援の場所の提供
- 宿泊所、女性のシェルターの運営
- 無料法律相談の実施
- ユニバーサル就労支援として、働きたいのに働けずにいる人の支援
- 地域保育サークルとの連携
- 交通不便地区での地域住民に対する施設バスの運行等

### 私たちは「かながわライフサポート事業」に参加しています

かながわライフサポート事業参加法人一覧（平成27年11月現在）

(福)横浜長寿会、(福)むつみ福祉会、(福)小田原福祉会、(福)藤嶺会、(福)弥生会、(福)中心会、(福)泉心会、(福)清流会、(福)照陽会、(福)相模福祉村、(福)愛慈会、(福)若竹大寿会、(福)横浜求夢会、(福)雄飛会、(福)吉祥会、(福)共生会、(福)喜寿福祉会、(福)公正会、(福)松緑会、(福)愛川昇寿会、(福)つちや社会福祉会、(福)浄泉会、(福)たちばな会、(福)たちばな福祉会、(福)恩賜財団神奈川県同胞援護会、(福)ラファエル会、(福)聖音会、(福)愛仲会、(福)成光福祉会、(福)湘南福祉協会、(福)千里会、(福)かがやき、(福)県央福祉会、(福)すぎな会、(福)恵正福祉会、(福)一石会、(福)大原福祉会、(福)豊笑会、(福)育生会、(福)寿、(福)栗山会、(福)プレマ会、(福)則信会、(福)喜楽会、(福)奉優会、(福)緑友会、(福)上村諒生会、(福)大地の会、(福)敬心会、(福)誠幸会、(福)慶慶会、(福)神奈川県社会福祉事業団、(福)竹生会、(福)明友会、(福)富士美、(福)湘南広域社会福祉協会、(福)くすのき、(福)さくら会、(福)みなと会、(福)百鶴 ※参加申請順



「かながわライフサポート事業」の参加法人を募集しています

本会ホームページのトップページに参加法人名を掲載



連絡会議の様子。かながわライフサポート事業の参加法人のコミュニティソーシャルワーカーも出席。NHK「おはよう日本」でも放映された

かながわライフサポート事業に参加しているという回答の法人もありました。本事業はまさに「オールかながわ」をキーワードに種別を超えて、県内全域で展開をしている事業ですが、オールかながわで行うことで、より広く関係者の方々に知ってもらう機会も増え、今年度も県内外の各地で事業について話をしています。

事業が周知されるにつれ、連携先も増えてきました。フードドライブという各家庭に眠っている、例えばお中元でもらった素麺やお菓子などを会議や研修の時に一品だけ持ち寄って、食品を寄付してくれる企業や団体もあります。他にもリサイクルを行っている企業からの家電製品の寄付などもあります。

### (図)「かながわライフサポート事業」の仕組み



かながわライフサポート事業の仕組みは左図のようになっていきます。社会福祉法人からは財源とマンパワーの協力がありません。本会はそれを下支えるため、「コミュニティソーシャルワーカー」の研修や事例検討会などを企画・実施するとともに、社会福祉法人が連携して取り組む事業を多くの方に知ってもらうために、各地での講演活動やホームページ、メディア等への広報活動を行っています。一つの法人でこれら全てを行うことは大変なことですが、それぞれが役割分担することで、面として活動を行うことができ、県内全域での活動につながっています。

できることから少しずつ

かながわライフサポート事業への参加は法人の手上げ方式となっており、準備が整った法人から少しずつ参加が増えてきている状況にあります。事業開始当初は29法人でしたが、現在は61法人になっています。

また、財源とマンパワーの協力を得ていますが、会費については下限(3万円)を設け、法人の状況に応じた対応をしています。マンパワーについても、その事例に対応できるかどうかを協議し、法人の行事や監査対応などの状況に応じて違う法人への対応に切り替えたり、複数法人で対応するなどの工夫をしています。多くの法人が本来事業と並行して関わっているため、無理のない範囲で事業に参画しています。平成26年度は一年を通して事業を実施してきましたが、一つの法人で対応した事例は平均すると3件、1件あたり5回から8回程度の訪問等で支援を終えています。

また、本事業は生活に困っている方々への相談支援事業ですが、その要因として最も高く挙げられるのが失業です。これに対応していくために新たに「かながわジョブサポート」という取り組みを提唱しています。疾病や障害、高齢者や子育て中の方、短期労働や派遣労働、不当就労

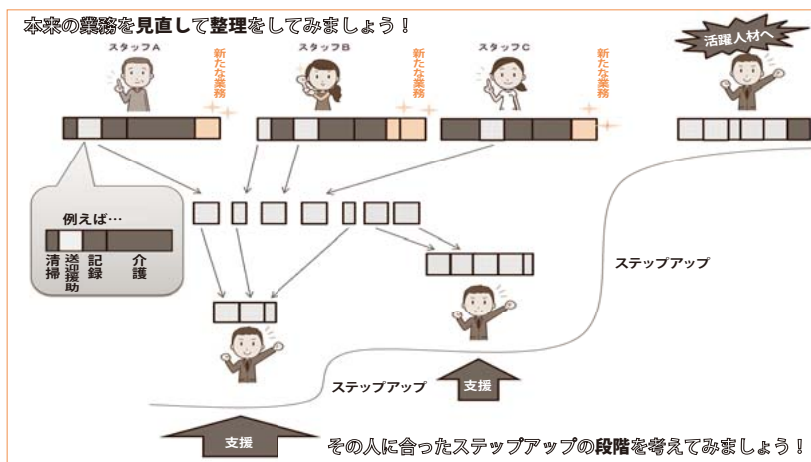
から抜け出せない悪循環など、働きにくい理由はさまざまです。

しかし、働き方や仕事内容を工夫することで、活躍できる人たちがいるのではないかと考え、とりわけ安定的に働くことが難しい人も、社会の中でその人なりに働くことができるところを作ることを提案しています。具体的には、現在、施設や事業所でスタッフの方が行っている既存の業務を見直し、整理して比較的専門性を必要としない業務を再構築することで、就労に困難を抱えた人でもできる業務を洗い出していたく仕組みです。これを業務分解といっています【図参照】。段階を経ながら、その人に応じた就労ができることで、自立した生活に近づくことができますものと考えています。



「かながわジョブサポートのすすめ」表紙

(図) 業務分解とジョブサポート



方、地域社会に貢献する法人として、先のアンケートの回答にあったように地域ニーズに応じて法人独自に創意工夫する中で展開する形もあると思いますし、かながわライフサポート事業に参加するという法人もあると思います。または、かながわライフサポート事業への参加は、もう少し準備が整ってから、しかしながら現状でもかながわジョブサポートで一人くらいなら受け入れることができるという法人もあるかも知れませ

他にもある社会福祉法人の連携

ん。まずは、できることから少しずつ実行に移していくということが大事になってくるのではないのでしょうか。

ここまで、公益的な活動ということで社会福祉法人の連携について触れてきましたが、それ以外にも連携している取り組みがあります。その一つが「人材確保と定着」です。

今まさに社会福祉法人にとって、人材確保は最重要課題であり、安定的な経営のためには欠かせない要素であることは間違いありません。この課題に対して、複数法人で対応しているところとして地域があります。

川崎市福祉人材バンクでは、市内にある大学との事業連携を進め、複数回行われる学内企業説明会に、毎回、市内の老人福祉施設の出席を実現しています。複数回あるため、市内の老人福祉施設が順番に出展を行い、その事前の会議を設け、工夫する点を話し合ったり、事後にも振り返りを行い、少しずつ改善して他の業界に引けをとらないようにしています。

今後はさらに、学内の業界研究入門で学生たちに福祉分野の理解を深めてもらう予定です。

一方、本会経営者部会においても入職して間もない職員の方々を対象として、各施設・事業所では1名な



経営者部会主催人材確保セミナーPart. 2 (上)、人材確保セミナーPart. 3の様子(下)。参加者は種別を超えて、法人の経験を共有しながら学び合っている



いし2名の採用でも、地域においては一定の数になるのではないかと考え、地域における同期づくりをコンセプトに新たな研修に試行的に取り組んでいます。

この川崎市での取り組みを参考に来年度に向けては、県内に点在する大学へ、その周辺にある社会福祉法人が連携して訪問し、福祉分野の魅力のPR、大学とのコラボレーション企画の推進を行っていきたくと考えています。本年度内にも経営者部会会員に向けて、その取り組みについての説明を予定しています。

他にも社会福祉法人同士が手を取り合い、実現していく取り組みはまだまざまま考えられます。かながわライフサポート事業がまだ検討段階の頃、ある委員が「私の地域にも見渡せば社会福祉法人がたくさんあります。でも、自分たちが事業展開する

分野のことは良く知っていても、運営していない分野は全く知らないというところも少なくありません。これを変えていって、地域にあるどの社会福祉法人へ相談に行っても、まずは受け止め、そして社会福祉法人同士がつながっていけば、たとえ運営していない分野でも、詳しい法人に つないで市民の悩みが解決していきけるようにしていきたいですね」と展望していました。この考え方は、かながわライフサポート事業にも引き継がれ、また、横浜市のある区では、社会福祉法人と地域が繋がっていく取り組みをしていこうと動き始めています。

県外の動きを見てみると、大阪府社協では、府内の市町村単位でも本会の経営者部会のように社会福祉法人等がまとまって活動していくべく組織化を行っています。滋賀県の縁

(えにし) 創造実践センターでは、関係者が分野や立場を超えてつながり、福祉制度のはざままで支援が届きにくい人々の声を聴き、地域の方々とともに、社会とつながっていない人々の縁を紡ぎなおし、誰もが自分らしくいきいきと地域で暮らすことを支える仕組みと実践を県内くまなく作っていく活動をしています。その具体例には、寂しさやしんどさを抱えている子どもたちが団らんの温かさを味わえるようにした「遊べる淡海子ども食堂」などがあります。どれも参考にしたい取り組みです。

### 今こそ社会福祉法人の強みを見つめ直して

かながわライフサポート事業の事例の一つに、家賃を滞納している執拗な取り立てにあっている方の支援がありました。毎晩、家に来ては玄関のドアを叩く日が続きました。相談者の方は、気持ちが悪入ってしまい、昼間働きに出ても、そのことが気になって仕事に身が入らない状況にありました。その時にライフサポート事業に相談いただき、管理会社との交渉が始まりました。何度かの電話でのやりとりを経て、相談者も交え、実際にお会いしてこれからについて話し合うことになりました。家のドアを叩くような所だったので、皆で緊張しながら交渉に臨みまし

た。施設の会議室をお借りしましたが、その時に施設のスタッフの方が、施設での食事を一食分、多く用意してくれて相談者に提供してくれたのです。これから交渉に臨む相談者にとって、それは施設の方がしてくれた配慮でした。交渉が無事に終わり、これからの生活にも目途が立った時、相談者の方がポツリと声を漏らし、そして涙を流しました。「こんなに温かい味噌汁をいただいたのは久しぶりです」と。

地域に存在し、地域とともに歩んできた社会福祉法人の原点は、このエピソードにあるように、目の前に困っている方がいたら、手を差し伸べる、自分たちにできる愛情を持つてその方と向き合うということだろうと思います。社会福祉法人制度改革が行われようとしている今だからこそ、社会福祉法人の強みは何かを考え、また考えるだけではなく実行していくことが肝要です。それぞれの法人が一から十まで行うのではなく、連携して取り組んでいく、強みを生かして地域に参加する、そんな視点を持って取り組むことで個々の法人の負担感を軽減しながら、「国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人」になっていけると考えています。本会もそれを目指して事業を推進していきます。

(ライフサポート担当)